

メンフィス・ネクロポリスの遺跡インベントリーの現状

西坂 朗子*

1. はじめに

メンフィス・ネクロポリスのように広大な地域の遺跡の保存管理状態を把握し、整備計画を立案するためには埋蔵遺跡を含めた遺跡のインベントリーが必要不可欠である。International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property (以下イクロムと略記) が1998年に刊行した *Management Guidelines for World Cultural Heritage Sites* にも、「遺跡内のすべての文化資源の一覧表の作成」が遺跡整備計画の第一段階として挙げられ、具体的な記録方法として、以下の3点が示されている (Feilden and Jokilehto 1998: 2, 25)。

- ・遺跡に関連するすべての文献を収集し、カタログ化し、利用可能にする。
- ・管理の対象とする遺跡は、締約国の土地利用を管理する法律に依拠する。
- ・インベントリー (一覧表) には、建物、都市景観、遺跡の景観的資源も含む。

更に、同書の巻末には、記録が必要な項目も収録されており (Feilden and Jokilehto 1998: 2, 25)、エジプト国内では遺跡の管理計画立案の第一段階として、こうした項目を踏まえたインベントリー作業が進行している状況である。ここではその現状について述べてみたい。

2. 遺跡のインベントリーに関連する法律

エジプト国内の遺跡のインベントリーについては、エジプトの「文化財保護法」にあたる1983年の第117号法律の第2、8、9、24、26条において規定されており (The Egyptian Cultural Heritage Organisation 2009: 302-304)、特に第26条からは、SCAが動産・不動産の文化財の登録作業についてすべての権限と責務を負うと解釈される。以下に第26条について示す。

第26条¹⁾

1. 古物当局は、不可動及び可動古物の数を数え、撮影し、製図し、登録することを、その古物に関する情報を集めることとともに、行う。登録は、当局理事会が発した命令の諸条件・諸規定に従って、有効となる。登録古物とは、本法発効日よりこのための登録所で登録したものをいう。
2. 当局は、考古調査を行い、所定の場所の考古遺跡及びその特徴を調べ、それを地図上に記入することを目的とし、それらの写しを、全体計画の構想に当たりそれらが守られるよう地方の担当部署及び都市計画総局の両者に送付する。
3. 当局は、環境・都市の情報及び重要性に応じて考古遺跡毎に影響を与える諸要因の登録簿を用意する。

こうした登録簿は、フリーテキストの形式の説明を含む非常に基礎的な要素、例えば年代や場所、写真

* サイバー大学世界遺産学部助教 / 早稲田大学エジプト学研究所客員研究員

と地図から成るが、国による登録番号はなく、登録は手書きで行われており、劣化の心配や、電子データに比べて多くの研究者や職員がアクセスできる状態にはないのが現状であると指摘されている (Center for Documentation of Cultural and Natural Heritage 2001: 31)。

現在、GIS を活用した遺跡情報システムの構築の取り組みがなされており、CULTNAT、EAIS などの組織が、システム構築や情報収集で成果を上げつつある。以下に、現在使用可能な遺跡目録や近年のインベントリー作業の動向について概要を述べる。

3. インベントリーの概要

(1) Porter & Moss による文献目録

学術的な目録として、エジプト学者が頻繁に参照する基本文献として、Porter and Moss, *Topographical Bibliography of Ancient Egyptian Hieroglyphic Texts, Reliefs, and Paintings* (以下、Porter & Moss と略記) が挙げられる。Porter & Moss は保存管理を前提としたインベントリーではないものの、メンフィス・ネクロポリスの遺跡の分布概要を理解する上で重要な資料となる。「第3巻メンフィス」の第1部と第2部に、本研究調査の対象地域である「メンフィス・ネクロポリス」の遺跡群が収録されている。第1部には、アブ・ロアシュからアブ・シールの遺跡が北から順に (Table 1)、第2部には、サッカラからダハシュールの遺跡が含まれる (Table 2)。

Table 1 Porter & Moss によるインベントリー (アブ・ロアシュからアブ・シール) (Porter and Moss 1974: v-viii を基に作成)

Pyramid-Fields of Abû Rawâsh (アブ・ロアシュのピラミッド・フィールド)
Pyramid-Fields of Gîza (ギザのピラミッド・フィールド)
Pyramid-Fields of Zâwyet el-'Aryân (ザヴィエト・アル＝アルヤーンのピラミッド・フィールド)
Tammûh (タンムーフ)
Abû Ghurâb (アブ・グループ)
Pyramid-Fields of Abûsîr (アブ・シールのピラミッド・フィールド)

Table 2 Porter & Moss によるインベントリー (サッカラからダハシュール) (Porter and Moss 1979: v-viii を基に作成)

Pyramid-Field of Saqqâra (サッカラのピラミッド・フィールド)
El-'Azîziya (アル＝アジジーヤ)
Mît Rahîna (ミート・ラヒーナ)
El-Badrashein (アル＝バドラシェーン)
Pyramid-Field of Dahashûr (ダハシュールのピラミッド・フィールド)

世界遺産センターに提出された世界遺産の境界地図では、ギザよりも北に位置するアブ・ロアシュ²⁾や、メンフィスの北の緑地に位置するアル＝アジジーヤは世界遺産の指定区域からは外れている。同様に、ダハシュールより南に位置するマズグーナ、メイドウム、リシェトなどのファイユーム地域にも古王国や中王国時代のピラミッドが存在しているが、これらも世界遺産の指定地域からは外れている。

Porter & Moss は、*Topographical Bibliography* というタイトルが示すように、遺跡ごとの文献目録として作成されているものである。そのため、刊行以降に発見された遺跡、位置がわからなくなっている遺跡、埋蔵されている遺跡については、記載がない場合もあり、また巻末の遺跡地図についても正確な位置を示すものではなく、遺跡の保存管理のための目録としては不十分である。ただし、文献のカタログとしては重要な基本資料の一つとして活用されるべきものである。

(2) North-Saqqara Risk Map のインベントリー

2000年7月～2003年10月にかけて、イタリアの外務省が後援し、エジプト政府の環境省および文化省 SCA が主体となり、ピサ大学が協力するチームにより、地域は限定的であるが、環境と考古学の側面から遺跡保存のための調査研究が実施された³⁾。

その第1段階の作業では、「北サッカラ」における網羅的な考古資源のインベントリーが、専門家の技術的指導の下、SCAのエジプト人の職員の手で行われ、先述の Porter & Moss を基にした北サッカラの遺跡のデータベース化および GIS を活用した North-Saqqara Risk Map が提示された。対象地域は「メンフィス・ネクロポリス」の中でも、Porter & Moss の「北サッカラ」の遺跡に該当する地域のみであり、南サッカラの「ペピ1世、メルエンラー1世、イセシ王のピラミッドの周辺」「イピ、ペピ2世のピラミッドとマスタバファラウンの周辺」などは対象から外れている。

North-Saqqara Risk Map のインベントリーでは、Table 3 に示すように、Porter & Moss の「サッカラのピラミッド・フィールド」の地区名称を用いて、9つの地区をコード化している。データベースに登録された遺跡の総件数は、全611件に上る。このうち442件は Porter & Moss の1982年版に既に記載のあるデータだが、これに Porter & Moss に記載のない古い記録83件、1982年以降～2000年の新しい記録86件を追加している。

Table 3 North-Saqqara Risk Map によるインベントリー (Fahmy 2003: 136 を基に作成)

PS	Pyramid Field of Saqqara (サッカラのピラミッド・フィールド)
NPS	North of the Step Pyramid (階段ピラミッド北)
ESP	East of the Step Pyramid (階段ピラミッド南)
WSP	West of the Step Pyramid (階段ピラミッド西)
ATP	Around Teti Pyramid (テティ王ピラミッド周辺)
APU	Around the Pyramid-complex of Unas (ウナス王ピラミッド複合体周辺)
BMS	Between the Monastery of APA Jeremies and the enclosure of Sekhemkhet (アパ・ジュレミア修道院からセケムケト王周壁の間)
SAC	Sacred Animal Complexes (アニマルネクロポリス)
TPU	Tombs Position Unknown (墓所在地不明)

このうち13件の選ばれた遺跡に関しては、詳細な状態調査が実施され、GISを活用したデータベースが構築されている。また、環境面の調査では、3件の遺跡に絞り、自動観測機器による環境データの取得が行われた。GISのベースとなる地図には、*Survey of Egypt. Topographical Series* を使用し、他にも古地図や1963年の W.S. Smith、1974年の A.J. Spencer の成果などを相関させ、現在地を特定するための分布調査も実施している (Giammarusti 2003: 92)。

しかしながら、現在までデータベースや GIS の電子データやシステムは公開されておらず、一般的に利用できる状況ではない。また北サッカラの一部を導入的に扱ったプロジェクトであったため、その後の全土への展開またはメンフィス・ネクロポリス全体への展開には至っていない。

(3) CULTNAT のインベントリー

CULTNAT の「エジプトの考古地図」プロジェクトでは、「国レベル」「遺跡レベル」「記念物レベル」の3階層で、遺跡のデータベース作成を行っている。「国レベル」の地図については、プロジェクトの刊行物として、2001年から2009年4月までに、*Atlas of Archaeological Sites* のシリーズとして12冊が刊行されている⁴⁾。

CULTNAT のホームページ上のデータベースに公開されている「国レベル」の分類では、メンフィスとそ

のネクロポリスの範囲では、16件の遺跡がプロットされている (Table 4)。その下の「遺跡レベル」「記念物レベル」などより詳細なレベルについては、ギザ台地の一部を除いては、現在はまだ公開されていない。ギザ台地に関しては、「遺跡レベル」の総数 8000 件のうち 60% を終了しており、「記念物レベル」では、6 基のマスタバについてデータのサンプルがホームページ上で公開されている⁵⁾。

Table 4 CULTNAT によるインベントリー (CULTNAT ホームページ “The Archaeological Map of Egypt” (<http://www.cultnat.org/Programs/Archaeological%20Map/Application/Pages/Application.aspx>) を基に作成)

Abu Rowash (アブ・ロアシュ)	Saqqara (サッカラ)
Kafr Ghattâfî, Kafr El-Ghâtâfî (カフル・ガッターティ、カフル・アル=ガタティ)	Aziziyeh (アジジーヤ)
Giza Platau (ギザ台地)	Badrashin (バドラシェーン)
Nezlet Batran (ナズレット・バトラン)	Kom El-Khanzir (コム・アル=ハンジール)
Zawiet El-Aryan (ザヴィエト・アル=アルヤーン)	Kom Rabia (コム・ラビア)
Zawiet Abu Musallam (ザヴィエト・アブ・ムサラーム)	Kom El-Qala (コム・アル=カラ)
Abu Ghurab (アブ・グラープ)	Dahshur (ダハシュール)
Abu Sir (アブ・シール)	Mazghuna (マズグーナ)

(4) EAIS によるインベントリー

EAIS は、2000 年に創設されたが、2007 年以降は SCA の GIS センターとして活動を継続している。地図作成、記録、歴史的な遺跡の登録の機能を向上するための手段として GIS の活用が期待が寄せられている。EAIS では、このシステムが発展するためには、異なる機関や団体からの最新かつ正確な情報を取り込むことが不可欠であるとしている。ESA (Egyptian Survey Authority) が地図を提供し、SCA とは法的情報を共有し、考古学者には遺跡に関する考古学的なデータを予備報告書とともに提出するように要請している⁶⁾。

このインベントリーでは、SCA の Amlaak 部 (Property and Survey Department) と共同して、登録されたすべてのエジプトの考古学的遺跡をデジタル化して記録するプロジェクトを進行させている。GIS で最も重要なのは、X、Y 座標形式でのこれらの遺跡の位置情報である。SCA の Amlaak 部は、考古学的遺跡の情報を含む表を紙媒体で提供し、EAIS の技術チームが紙媒体の表からエクセルシートを作成し、GIS ソフトウェアを用いて、これらの座標値を「点」に変換する作業を行っている。この結果が不正確な場合には、正確な場所を明らかにするための修正作業が、SCA の Amlaak 部の代表と EAIS のチームメンバーの間で行われている。2007 年までには、11 県について作業が終了し、メンフィス・ネクロポリスを含む「ギザ県」の遺跡地点の GPS 測量を含む現地踏査が 2007 年 7 月時点から開始されている⁷⁾。

EAIS のホームページでは成果の一部が公開されており、エジプト全体の地図 (A glance Over Egypt) が 77 の考古学的遺跡を含むシートに分割され (Fig.1)、それぞれのシートでは 1:25000 の地形図を背景に作成された考古学的遺跡の分布図を参照することができるようになっている⁸⁾。メンフィス・ネクロポリスを含む「ギザ県」については、ホームページ上にて、Sheet NH36I_d (Fig.2) および Sheet NH36I_b (Fig.3) の 2 枚の地図が公開されている。地図は、「SCA Archaeological Site」として「先史」「古代エジプト」「ギリシャ・ローマ」「コプト」「イスラーム」の遺跡を含むもので、30 地点以上がプロットされている。

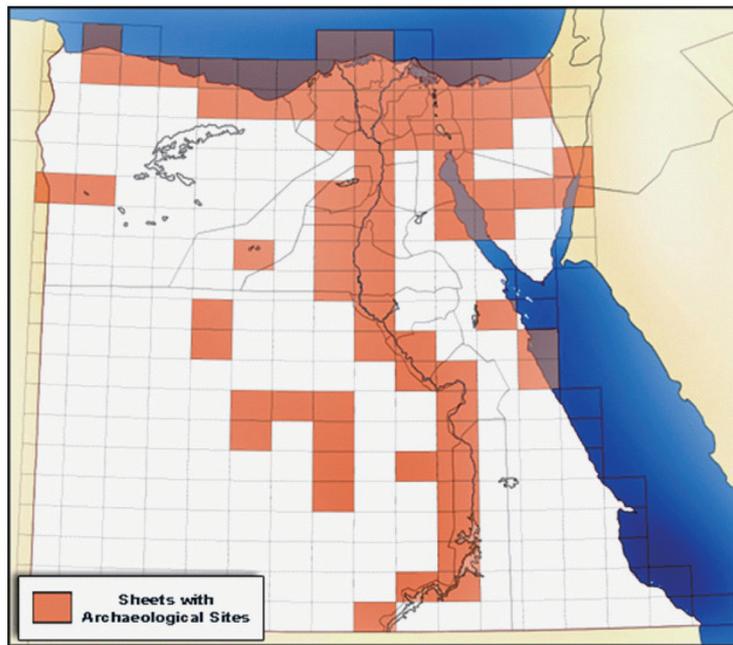


Fig.1 EAIS によるエジプト全体の地図 (http://www.eais.org.eg/index.pl/indexed_maps2 より)

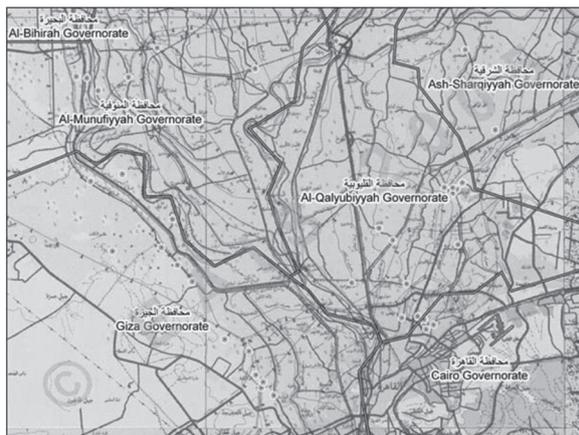


Fig.2 「ギザ県」の Sheet NH361_d
(http://www.eais.org.eg/index.pl/sheet_nh361_d より)

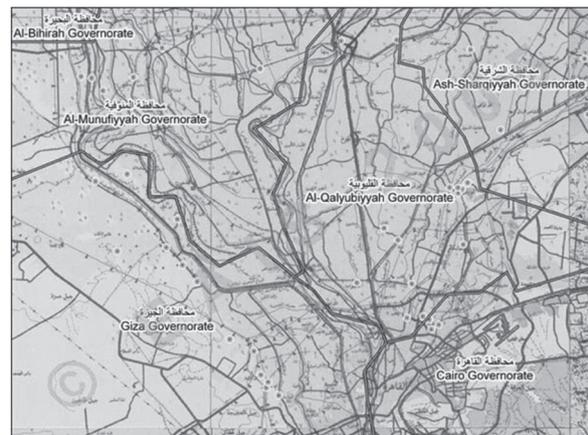


Fig.3 「ギザ県」の Sheet NH361_b
(http://www.eais.org.eg/index.pl/sheet_nh361_b より)

4. まとめと今後の課題

North-Saqqara Risk Map、EAIS、CULTNATでは、それぞれがGISのデータベースを作成しており、それぞれの機関の連携について聞き取りを進める必要がある。各インベントリーでの詳細なデータ項目については比較を要する。こうした必要性については、エジプト学者の間でも広く認識されており、G.J. タッシエ (Tassie) と F.A. ハッサン (Hassan) は、最近の刊行物の中で“National Heritage Register of Sites and Monument Record (NHR-SMR)”の構築をエジプトの文化遺産管理の第一歩として提唱し、GIS活用を含めた具体案を提案している (Fig.4; Tassie and Hassan 2009)。

こうしたエジプト国内の現状を鑑みると、本研究課題においては、現在遂行しているメンフィス・ネクロポリスでの学際的な調査データを基礎に、これを例示することが可能であり、エジプトの文化遺産の保存管理を推し進める上での重要な第一歩に貢献できると期待される。

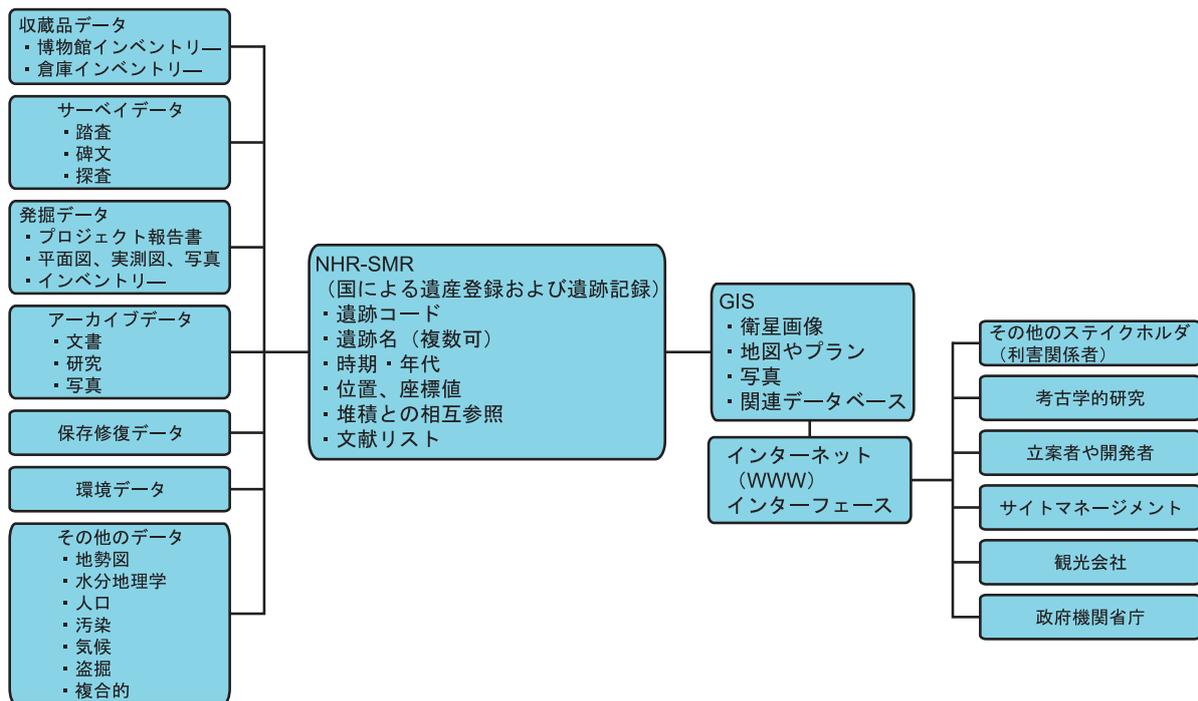


Fig.4 “National Heritage Register of Sites and Monument Record (NHR-SMR)” の概念図 (Tassie and Hassan 2009: Fig.15.2 を基に作成)

註

- 1) 現行の「古物保護法発布に関する 1983 年法律第 117 号」の英文は、UNESCO Cultural Heritage Laws Database (<http://www.unesco.org/culture/natlaws/>) にて検索・ダウンロードが可能である。また、東京文化財研究所の文化財保護関連法令データベース内には邦訳が掲載されている (<http://www.tobunken.go.jp/~kokusen/JAPANESE/DATA/LAWS/PDF/Egypt/egy01j2.pdf>)。
- 2) アブ・ロアシュの現状および保存管理の問題点については、Fushiya and Trafford 2009 を参照。
- 3) この調査研究は、エジプトとイタリア環境協力プログラムの第 1 フェーズの一連のプログラム “Enhancement of the Organisation and Capabilities to Preserve Cultural Heritage Assets of Egypt” の一環として実施され、2003 年に終了した。調査成果については、*The North Saqqara Archeological Site: Handbook for the Environmental Risk Analysis* として報告書が出版されている (Ago et al. 2003)。その後、このプログラムの第 2 フェーズでは “Institutional support to SCA for environmental monitoring and management of cultural heritage sites: applications to Fayoum oasis and North Saqqara Necropolis” が計画・実施されている (http://www.eicop.org/ambiente2/projects_2/cultheritage_2.htm)。
- 4) これまでに刊行されたのは、(1) シャルキーヤ県、(2) カフル・アル＝シェイク県、(3) アル・バハレーヤ県、(4) 残りの下エジプトの県、(5) ファイユーム～ベニ・スエフ県、(6) アシュート県、(7) アル・ミニア県、(8) ソハーグ県、(9) ケナ県、(10) ルクソール県、(11) アスワン県、(12) イスマイリーア～ポート・サイド～スエズ県の計 12 巻である。詳細は CULTNAT のホームページを参照 (<http://www.culnat.org/Programs/Archaeological%20Map/Publications/Pages/Publication.aspx>)。
- 5) 詳細は CULTNAT のホームページのより検索が可能 (<http://www.culnat.org/Programs/Archaeological%20Map/Application/Pages/Application.aspx>)。
- 6) 2003 年に外国考古学調査隊に対して、データ提供を要請しており、地図・写真・データシートのガイドラインとともに、記入用の「データシート」が準備されている。データシートの項目については、別章にて示したとおりである。
- 7) EAIS, “System population –Achievements 2000-2007-“, EAIS News letter #12, December 2007, p.2; http://www.eais.org/eg/index.pl/sample_update
- 8) EAIS のホームページを参照 (http://www.eais.org/eg/index.pl/indexed_maps2)。